



### 麻生不動院(明王山不動院般若坊)

#### 室町時代にルーツを持つ古刹

麻生不動院は、下麻生一丁目にある真言宗豊山(ぶざん)派の寺院で、明王不動院般若坊と呼ばれます。応永年間(1400年頃)足利公坊の庇護を受け、不動堂が建立されたとされます。

嘉永4(1849)年に了円という僧侶が再興に努め、王禪寺の管理下になって一層繁栄し、1月28日の不動の日には、北は津久井郡城山から、南は東海道川崎宿からも参詣に来たそうです。本尊は不動明王像で、縁起によると、鎌倉覚園寺を開山・開基した願行上人が、不動尊三体を作り、一体を自寺に、他の二体を相模の大山と武州麻生郷不動院に安置したといわれています。

一方、伝説では、昔ある村人が木賊ヶ原でトクサを刈っていると、八寸程の不動尊が見つかり、これが麻生不動の本尊で、以来木賊不動の名がつき、火伏せの神とされています。

1月28日の縁日に、参詣者は火伏せの利益のあるという銭をいただいで帰り、それを囲炉裏の自在鉤にかけておくと子供が焔に落ちない、また火事にもならないとされています。1年間無事に過ごせた時は、前年にいただいた穴あき銭にお礼のお金をそえて返し、新しい火伏せの銭をいただきます。この風俗は、囲炉裏のなくなった現在もつつけられています。

#### だるま市が川崎市地域文化財に

不動の縁日、境内ではダルマの店が、また参道には400軒を超す露店が並びます。縁日にダルマを売り始めたのは明治37年(1904)からで、町田市能ヶ谷の池田巳之吉という人が東京北多摩郡の村山町からダルマを仕入れて売ったのが最初とされます。大正時代に入ってダルマを売る店が増え、昭和6年(1931)から平塚の相州ダルマが入り、現在ではほとんどが平塚のダルマになりました。通常は年の瀬に開かれるだるま市ですが、麻生不動院では例年1月28日に行われるため「関東納めのだるま市」として親しまれています。このだるま市は、2022年12月に川崎市教育委員会から川崎地域文化財に選ばれました。

七転八起の法被を着た売子が、だるまが売れるたび、買い手の家内安全・商売繁盛を願って火打石で切り火をし、威勢のよいかけ声をかける様子は、見ているだけでも元気を貰える風景です。なお、からむし46号(平成21年3月)の表紙に、松田洋子さんが麻生不動院とだるま市の絵と記事を載せておられ、参考にさせていただきました。

(絵と文 佐藤勝昭)

からむし第72号の  
ラインナップをご紹介します

#### P1 麻生区の風物紹介

麻生の風物詩となっている麻生不動院のだるま市は、このほど川崎市地域文化財の指定を受けました。佐藤勝昭さんの絵と文で不動院とだるま市を紹介いたします。

#### P2 座談会「新しい風はアユニ」

麻生区文化協会が「新しい風と創造」を掲げてから8年が経ちました。この間新しい風は吹いたでしょうか、今後どうすれば新しい風を吹かせるかを話し合います。

#### P4 私の提言

麻生区文化協会に長く関わって来られ、総会等で適切なコメントをいただく書家の笠原秋水先生に本会のこれからへの提言を書いて頂きました。

#### P5 麻生フィル40年

麻生フィルハーモニー管弦楽団がこの程創立40周年を迎えました。創立の経緯、文化協会との関わりなどを団長である岩倉宏治さんが熱く語ります。

#### P6 麻生区文化協会の行事

文化協会が2023年度後半に行った活動をまとめ、そのいくつかを詳細に報告するコーナーです。夏休み親子教室・舞台衣裳の女優さんを描くセッション会、文化祭の俳句大会・美術工芸展、あさお古風七草粥の会、かわさき市民芸術祭の美術部門、舞台部門、文化講演会、アルテリッパ力新ゆり美術展などの報告をそれぞれの関係者に書いて頂きました。

#### P8 会員の活躍

写遊会ほか

#### 文化協会のこれから

麻生区文化協会の2023年度に行っている行事総会・セッション会・夏休み親子教室・俳句講座・文化祭などの日程の予告です。

編集後記